

～ 第6次留萌市総合計画意見交換会 ～

1. 商店街振興組合連合会

【開催概要】

- 平成28年8月1日(月) 19:05～20:33
- 市役所3・4号会議室

【出席者】

商店街：土田(オプトメガネ)、室本(室本萬翠園)、関口(バード)、石井(山屋ベーカリー)
金森(かなもり印舗)、高田(一久庵)
委員：伊端座長、大石委員
市：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

【資料】

第6次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント

【内容】

- ① 座長挨拶
- ② 市民会議案説明
- ③ 意見交換

〔目標・検証〕

- 評価と分析結果で、なぜできなかったかの分析が必要。
- 目標を一つ達成することによって、みんなが達成感を感じる。それによって次のステップ、意欲につながるが、現状では何も見えてこない。
- 毎年500人の人口減少が20年間続いているということは、政策としては破綻しているということ。政策として根本的に間違っていたのではないか。市役所だけでなく、市議会や市民の原点が違うのではないか。
- 基本構想ではあるが、優先順位が必要で、経済が最優先。
- 総合計画の構成図(ピラミッド型)は良くない。同心円状の中心に核となるのが構想で、それを取り巻くのが基本計画、実施計画でなければいけない。
- 基本構想は具体的なものではないもので、基本計画、実施計画の方が、興味があり参加したい。

〔まちの中心・商店街〕

- コンパクトシティのスタートは、公共施設の配置。それに付随して商店街も連なってくる。市役所や公民館などの配置を決めないと地域も動かない。行程表なども見えてくると動き出す。
- 学校が統合されていく中で、そこ(跡)に何か核となるものをつくるというのは、市民・地域の責任ではなく市役所の責任で構想を立てるべき。分かる範囲でお手伝いはできる。
- 公共施設の建て替えの時期が目前に迫っている。議論を始め、利益誘導したい人はやればよい。議論もせずに決定するのではなく、具体的に市民が議論できる、理解できるように。
- 公共施設が集客施設となり、周りに民間施設ができ、PFIでやることも可能。議論できる場が必要。
- 商店街は、張り付いてきた結果が中心街となる。商店は中心街を誘導するものではない。商店街が人を集めないから中心街が廃るといっている人がいる。核となるものがあつての商店街。
- 公共交通に乗って行けないような公共施設ばかり。
- この先商店街ではなくなる。個店で生きていくしかない。整理(集約化等)する必要もない。

- 後継者がどうのこうのではなく、稼げて成り立つのであれば継承されるし、息子直系の考えはない。空き店舗対策も反対。補助の期間だけで、定着率が低い。
- 郊外の住宅地は、高齢化が進み、住めなくなる。まちの経営コストを考えると、ここから先は住めない、水道も道路も止める、移転料出してまち中に移住させた方が、効率的。

〔施設・産業〕

- 野球場のトイレ問題。留萌での開催を敬遠されている。マイナスイメージであり、払拭しなければいけない。
- 観光は、観光産業として金を落とさせるシステムをつくる必要がある。ホスピタリティやおもてなしは表向きの話であってメインではない。
- 黄金岬の店をきれいにして、来訪者の10%をまち中に流すシステムで雇用も生まれる。ゴールデンビーチも毎年浚渫して億のお金を使っているが、お金を掛けない黄金岬の方が、観光客が来ているという事実を冷静に見なければならぬ。民間がやって行政が付いてくればいいだけ。
- 船場公園は、駅が無くなったとき有効活用できるのだろうか。木の無い公園なんてありえない。自由にも使えない。使い勝手が悪い。あんな見苦しい管理等があって、見晴らしも悪い。

〔その他〕

- 自主防災組織を作っているが、個人情報の壁があって進まない。市役所で誘導、支援してくれない限り、全世帯をカバーすることはできない。
- 郊外の外資店の水道料を高くするなど、市民が作ったインフラを市民と同じように使うのは駄目だ。高くすることで公平になる。
- JR留萌増毛間が廃止になったときに、無償譲渡かもしれないが、固定資産税収入と維持コストを考えると、市民に有効な財産になるのか議論しなければいけない。貰うべきではないと思う。

2. 各種団体合同

【開催概要】

- 平成 28 年 8 月 2 日（火） 18:30～20:00
- 市役所 3 号会議室

【出席者】

社会教育委員 : 前田郁美、北野克誠、(炭谷憲治、磯貝富子)
青少年育成推進協議会 : 磯貝富子、(炭谷憲治)
文化会議 : なし
体育協会 : 長尾保廣、中尾輝幸、炭谷憲治
老人クラブ連合会 : 松下功、和田哲夫
防犯協会 : 齊藤正義、宮尾久志
観光協会 : 安達利子、佐藤雄一郎 計 6 団体 12 名
委員 : 伊端座長、大館副座長
市 : 佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

【資料】

第 6 次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント印刷資料

【内容】

- ① 座長挨拶
- ② 市民会議案説明
- ③ 意見交換

〔テーマ・市民参加〕

- 市民が、どういう立場でかわりを持っていくのか、会議体として参加していくのが分かり難い。
- 第 6 次はこの中から一つでも達成していけるように、動いていく人や方向性が見えれば団体も市民も動き出す。動かないマチは発展もない。
- 基本構想は出されるが、具体策が見えてこない。いつもやむやになっている。
- 教育も大事、福祉も大事何もかも全部大事で的を絞れない。特化していく必要があると思う。
- ここは我慢してここは進めるというように、市民を誘導していける優先順位が必要。
- 5 次の検証結果として漠然としすぎて、どこから進めばいいのか分からない。
- 大きな目標と目の前を分けて考えていかなければならない。
- 市民に、知らせる方法の検討と市民協力が得られる方法を考えていかなければならない。
- 市民と一緒に取り組んでいこうという気持ちになれるかどうかだと思う。目標をしっかり持って市民にメッセージをはっきり出した方がいい。
- 市民にどう周知していくか、やる気を起こさせていくか仕組みが必要。
- 6 次計画を一人でも多くの方に知ってもらうことが必要。今日の参加者も少ない。もっと集まらなければいけないと率直に思った。
- 市民予算枠みたいなものをもって、市民に協力を仰ぐくらいのものであれば、市民が活きる予算になってくる。

〔教育関連〕

- 小中学校から高校進学の際に都市部に出る子どもが多い。ここを止めないと戻っては来なくなる。その理由を検証し、ニーズに合った学校づくりをしていかないと難しい。
- 留萌高校も進学に力を入れ、進学率も上がっている。頑張れば進学率も上がっており、目に見える、数字に表れることで、市民も評価する。
- 高校行って進学率を上げ大学進学すると戻ってこない。100 人のうち 10 人が地方に出て活躍するのも財産だが、たかが北大に 1 人 2 人。90 人が地元に残りたい、ここに行きたいという子どもたちをフォローするのが本来の教育。

- 勉強だけ、学力だけやっていたらいいのか。そうじゃないところが重要で、視点を持っていくことが必要。
- コミュニティスクールは、親の言うこと、地域の言うことを受け入れるものではなく、高いレベルで検討していくもの。良いところ悪いところを見極め、留萌に合った教育をつくる必要がある。

[公共施設・その他]

- 市役所庁舎の建て替え問題あるが、災害(津波や洪水)時に機能する場所に無ければいけない。
- 市役所、文化センター、スポーツセンターなど建て替えが必要。北海道合板跡地に建てることで人が動き商店街に流れる。交通の便もよくなる。中心街に公共施設を建てるべきではないか。土地が狭いのであれば、副港を埋め立てればいい。
- 高校統廃合後の利活用も含め、市役所が振興局に移り、振興局が留萌高校に移るのはどうか。
- 高校の統合でなぜ千望高校校舎を使うのかと疑問。目先のかかるお金のために国道沿いの留萌高校を廃校にするのは、もったいないような気がする。20年後30年後を考えた時に、それで本当に良かったのかと思う。
- 合宿に取り組んでいるが、はたして宿泊場所はあるのか、スポーツがやれる環境にあるのか。将来展望をもって計画的に改修を進めていかなければならない。
- 滝ノ上の芝桜、花は人を呼びつける。誰が芝桜を植えたかという個人の方がやり始めたもので、最初はキチガイ呼ばわりされていた。信念をもってやり続けた結果が今の姿になった。
- まちの中心を決めることは大切なこと。交通網整備も必要で、市民の考えも変わってくる。

3. 女性ネットワークるる

【開催概要】

- 平成 28 年 8 月 3 日（水） 19:30~21:00
- 市役所 2 号会議室

【出席者】

女性ネットワークるる：

村山ゆかり、蔵根倫美、亀口裕子、能登智恵子、越前初恵、杉山由美子

委員：伊端座長、大館副座長

市：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

【資料】

第 6 次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント印刷資料

【内容】

- ① 座長挨拶
- ② 市民会議案説明
- ③ 意見交換

〔テーマ・市民参加〕

- 計画はいつも素晴らしいものができる。でも、全部の実現は無理。これだけは絶対と
いうものを絞って作ってほしい。
- その計画の進み具合が見えてこない、市民の関心も薄れていく。情報を発信してい
く、注目されていることが必要。
- 計画の周知仕方がどうなのか。広報に載せたけど見たかという、文字が多いと読ま
ない、高齢者は横文字が入ると拒否。この計画を作ることは大切なことで、市民が知る
ための方法、分かりやすいものにしていかないと、市民は興味を持たない。
- 「総合計画」というとなんとなく難しい。もっとわかりやすい表現が考えられないか。
- 市民周知のため、掲示板みたいなものを設置し、情報発信の場所を認識してもらおう。
- 行政任せのまちというイメージを持っている。人づくり、若い人たちを育て、やっ
ていく人を育てるのも大事だと思う。
- 町内会だけではないが、高齢者がめっちゃくちゃ元気。若い人がなかなか育たない、機
会が無いというふうに見ている。
- 働くことが優先され、町内会は後回しになっている時代。時間のある年寄りしか役員
にならない。

〔まちの中心・市街地〕

- 留萌の中心部は錦町だと思っている。でも若い人たちは車社会もあって南町や大型店
の方なのかなと感じる。大型店の方には市内バスも通っていないので、高齢者にとっ
ては不便。
- この街は何で公共施設が点在しているまちなんだろうと感じた。市民も意外と不満を
抱えて住んでいる。
- どこの店に行っても偉そうに売ってやっているって感じ。ホスピタリティは低い。悪
循環が最悪の状態にいると思う。商店街のことを悪く言っている人は、今は行っていな
い人だと思う。
- 商店街の人が中心街ではないと言っているようだが、都市計画マスタープランの見直
しが必要になるのではないか。

〔その他〕

- 健康・福祉・教育の枠から、教育を切り離した方がいいと思う。重たいものが集まり
過ぎている。教育は、子育てだけではなく、生涯教育、人づくりも教育だと思う。
- 観光は、滞在型、滞在時間延長のために、見せる場所を中途半端ではなく、大きくお
金をかけてでもやるべき。
- 新しいものだけを生み出すものではなく、今まであきらめてしまった事をもう一度再
生してみる、チャレンジしてみるものいいかなと思う。
- 基本的に「港」は基本構想に残したい。

4. 留萌市建設業協会

【開催概要】

- 平成 28 年 8 月 10 日（水） 14:30～17:00
- 留萌市建設業協会応接室

【出席者】

留萌市建設業協会：岡本事務局長
市：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

【資料】

第 6 次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント印刷資料

【内容】

- ① 市民会議案説明
- ② 意見交換
 - 公共工事で、市では導入していないが、国などではコリズ登録により、人材(技術者)の確保が厳しくなっている。
コリズ：公平な評価により適切な建設会社を選定し、公共工事の入札・契約手続の透明性、公平性、競争性を一層向上させるためコリズを活用。
公共工事の内容を、その工事を受注した企業がコリズ・テクリスセンターに登録し、その登録された工事内容をコリズ・テクリスセンターがデータベース化して、発注機関および受注企業へ情報提供する。
 - 協会企業も H6～8 は 52 社で構成していたが、現在は 26 社に半減。
 - 従業員、作業員も人数削減、期間削減で体力が持つ範囲で対応しているが、ますます厳しくなっている。
 - 高規格幹線道路建設が終わると、継続的事業が無くなり、不安がある。
 - 企業も体力がなくなり、作業機械も所有からリースに転換している。
 - 作業員も道外と市内との賃金格差から、派遣したときに帰ってこなくなることも考えられる。
 - 災害復興事業においては、賃金格差が非常に大きい。
 - 地元で人材確保ができず、工事を受注できないこともある。受注しても確保できず、市外へ高額で請負依頼し、実入りが無くなっている。
 - 今後、東京オリンピック需要で、人材流出がますます加速するのではないかと不安。
 - 道外では年間通じた仕事があるが、冬季施工はあるにしても留萌では厳しい。冬季施工では、経費が掛かり過ぎ企業としてもうまみが無い。赤字。
 - 倒産による他に迷惑を掛ける前に事業中止の気持ちと、従業員の家族、生活を守る使命もあり、ギリギリでつないでいる。
 - 留萌港も拠点化形成促進港の指定にとどまり、国の大きな予算が来ない。留萌川河口の切り替えと浚渫程度で、大きなものが無い。開発の存続も不安。
 - 公共施設建て替えは必要であるが、短期事業。見晴通りも神居岩線もさほど長いものではないと思われ、長期的な事業が望まれる。